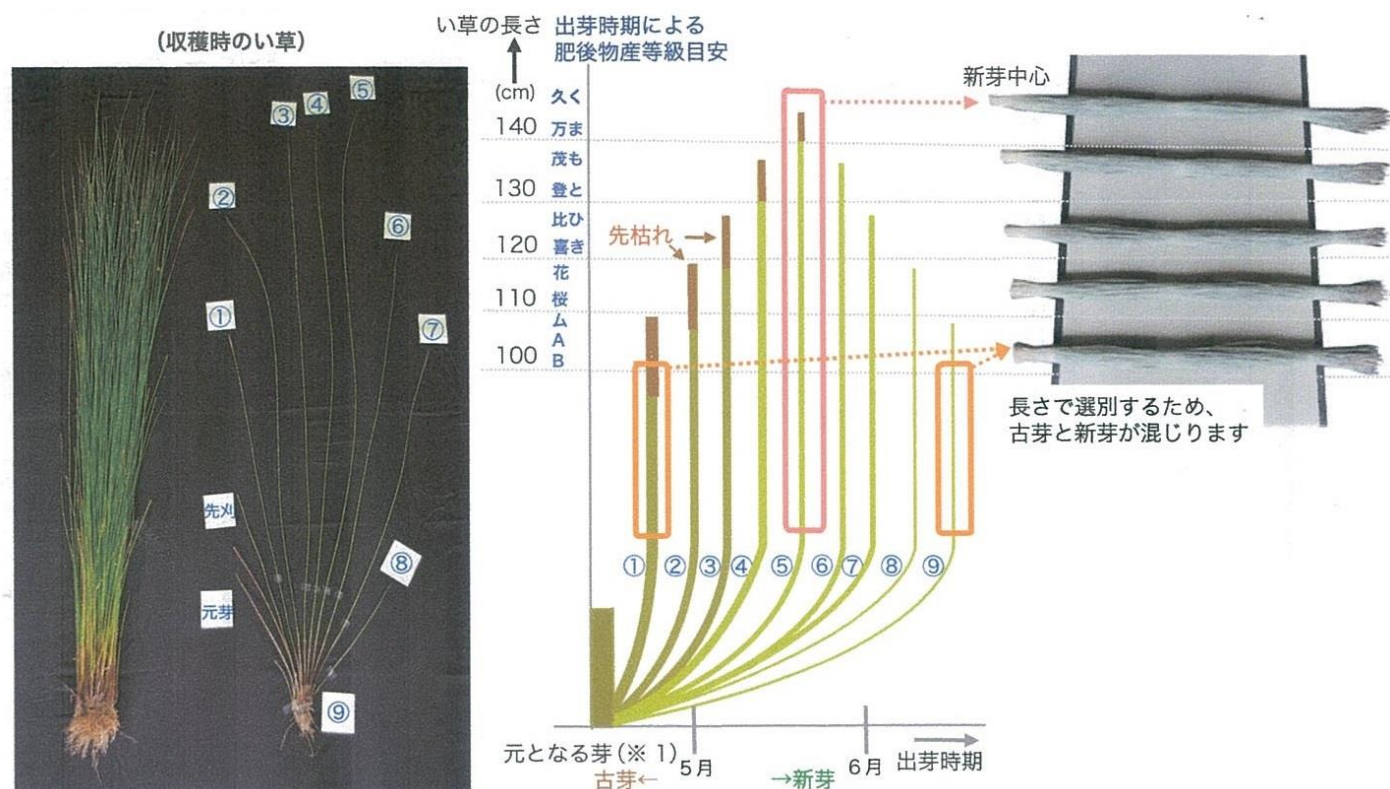


<たたみについて>

(1) たたみ表

い草は夏の暑い時期に苗床の準備をし、11月の下旬から12月の月上旬に植え付けをします。5月上旬に伸びた部分を一定の高さに刈る「先刈り」をして、太陽がよくあたるようにして成長を促します。7月の中旬ごろから刈り取ったい草は、変色を避けるために「染土」という粘土質の土を溶いた水につけてから乾燥させます。染土で染めることによってよく見るたたみの色が、長期間維持できるようになります。乾燥したい草は、選別機で長さごとに選別され、畳表に織り上げられます。たたみ一畳で、およそ4千本から7千本のい草が使用されています。

たたみの等級は、使用するい草の長さによって変わってきます。長さが長いほど、太さなどが均等な中央部分が長く、織り上がりが美しく、年数がたって色が変わるときも綺麗に変わっていきます。一つの株から5番目に生えてくるい草が最も長く質がよいとされており、一番草とよばれる最上級品になります。長さが短くなるほど等級が下がり、色の変わり方や傷み方も違ってきます。



現在のい草の主産地は熊本県です。以前は岡山、広島、福岡、高知などにも生産農家がありました。熊本県でも20年前には5千軒ほどが生産していましたが、現在は400軒ほどに減っていて、ほかの地域には1~4軒程度しかありません。それほどい草の生産は大変なのです。最近のたたみ表にはビニール系のものや和紙を使ったものもあります。

(2) たたみ床

たたみの土台であるたたみ床は、昔はわらで作られていましたが、今はわらのものやボードのものがあり、それぞれに使い途があるので、どちらがいい悪いということはありません。わらの場合は、手作業で何層にも並べます。その年に刈ったわらでは、水分が多いので2年ほど乾燥させたものを使います。床暖房を使うときは、わら床では熱が伝わりにくいため、熱伝導のよいボードを台にしたたたみもあります。